

令和6年度 北見カトリック学園 美幌藤幼稚園 学校評価

1.教育目標

一人ひとりがかけがえのないものとして神様から愛されていることを知り、神様への感謝を忘れない子に育てていく。
友達と一緒に活動するなかでお互いを助け合い思いやりの心を養う。
個々の発達段階に即した自立心を育てる。
素直な心で自然の恵みに気づき感謝し大切にすることを養う。

2. 教育目標達成に向けての6年度の重点

日常生活の中で、神様の優しさを感じ祈る。
集団生活を通して基本的生活習慣を身につける。
発達段階に応じて主体的、意欲的にのびのびと活動する。
一人ひとりの個性を尊重しお互いに認め合う。

3. 評価項目の達成状況

評価項目	結果	理由
教育内容・環境の充実と計画性	3.5	3歳以上児は、日々の保育振り返り、ケース会議などを通して、計画などをたて反省をし次生かす努力をしている。未満児は毎日の個人記録などから個人の計画をたてている。
保育の充実と園児との関わり	3.7	一人ひとりを尊重し、自尊心を傷つけないよう職員が意識し関わられるよう努めた。
安全管理	3.8	毎月園舎内外の安全点検を行うことで、職員の意識が変わってきた。玄関の施錠の徹底が時間によっては難しく課題である。日常的な安全への意識や危険への想像力は常に伝える必要がある。
地域の幼児教育機関としての役割	3.2	施設訪問や園外保育などを通して園を知ってもらう活動は増えてきたが地域に必要とされる園になるための働きかけは足りないと感じる。未満児、満三歳児もできるだけ受入れていることが、保護者支援になっているのではと思う。
教員の資質・能力向上	3.6	今年度は研修内容を、精査し行ってきた。個々スキルアップのために学びたいという意識には個人差があると感じる。
保護者との連携	3.7	保護者との関りは様々なツールを利用している。その時の状況に合わせて対応するようにしている。丁寧な説明や繰り返しなど、細やかな対応も必要と感じる。

※結果の表示方法 4 十分達成されている 3 やや達成されている 2 あまり達成されていない 1 取り組まれている

4. 6年度の総評

結果	理由
3.6	- 子どもたちを尊重するような関わり方に努め、不適切な保育に対する職員への周知を引き続き行ってきた。 - 昨年よりも園外保育が増え、公共の乗り物、施設訪問など活動の幅が広がった。 - 職員間の全体周知、報告など口頭、書面などで共通理解が出来るよう心掛けてきた。 - 研修などもできるだけたくさんの職員が受けられるよう、時間配分や職員配置を考え来た。

5. 来年度に向けての課題

・全職員の報告・連絡が漏れることのないよう努める。また、周知したことを職員が理解したのか確認も必要な場合は都度行う。
・保育室の環境や保育の準備不足にならないよう前日の確認をしっかりとる。
・各行事などの見直しや業務の軽減なども考慮しながら子ども中心の保育を進めていけるよう努める。